

はじめに

かつては、地縁、血縁、社縁といったつながりがセーフティネットとなり、福祉制度に当てはまらないさまざまな困りごとを抱える人や家族を支えていました。今では、そうしたつながりが弱くなった結果、制度のすき間にいる人が増えています。

そんな中、新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの暮らしは大きく変わりました。

マスクで表情が見えないことや、対面でないかわりによって、本当のことが見えづらくなっている、

新しい生活様式は、私たち一人ひとりが、

「普段の暮らし」を見つめ直す機会にもなりました。

家族やご近所さんなど、身近な人たちとのつながりが、暮らしの安心を高めていくこと。

地域にはさまざまな特性や考えを持つ人がいて、

それぞれが認め合い、支え合いながら生活していること。

このことに改めて気付かされた人も多いのではないのでしょうか。

この別冊に登場するお話が、私たちの「普段の暮らし」の延長にあり、皆さんのすぐそばにある身近なことだと感じるきっかけになればと思います。



もくじ

はじめに・目次 2

登場人物相関図、この本の使い方 4

Theme 01
ご近所さんのこと知っていますか？ 6

Theme 02
さまざまな『違い』理解できていますか？ 8

Theme 03
これからのこと、家族と話していますか？ 10

Theme 04
つながりかたの選択肢がありますか？ 12

Theme 05
暮らしの困りごと、相談できていますか？ 14

Theme 06
地域のこと見つめ直してみませんか？ 16

計画本編の概要、別冊との関係性 18



けん太
一家

けん太 10歳

主人公

小学4年生。引っ込み思案。
鉄棒といたけが苦手。

公園でよく見かける



ベンチのおじいちゃん？歳

ご近所さん？

近くの公園でよく見る。
いつもベンチに座ってボーッとしている。

登場人物の紹介

この物語の住人は、
生活の中で「モヤモヤ」したり、
心配ごとや考えごとがあるときに、
頭の中にモヤモヤを
抱えたキャラクターになります。
「モヤモヤ思考モード」の登場シーンで、
皆さんも一緒に「私ならどうする？」と
考えてみてください。

モヤモヤ思考モード





マクリ 48歳

主人公の母

学生時代は生徒会長で、地元愛が強い。
地域で頼りにされる世話役。最近仕事
で夜勤も引き受けることになった。



太郎 53歳

主人公の父

会社員。営業職、係長。婿ターン。
バイクが趣味。持ち家願望なし。
町内会の班長役が輪番でまわってきた。



廿郎 じいちゃん 76歳

主人公の祖父(母方)

けん太世帯とは一緒に住んでいない。
最近ひとり歩きをして
迷子になることが増えた。



和子ばあちゃん 78歳

主人公の祖母(父方)

けん太の地域からは離れて一人で居住。
テレビ電話用にタブレットを
もらったが使いこなせない。